

講演「世界のGAP報告」

〔パワーポイントによる説明。以下、画面ごとにP〕と表記

○武田（司会）　続きまして、「世界のGAP報告」ということで、これは日本GAP協会からの報告という形にさせていただきたいと思います。

本年度、日本GAP協会で、これも農林水産省の補助事業でございますが、世界のGAPについて調査いたしました。ヨーロッパとアジアと、GAPに関する実態調査をさせていただきました。その報告書については、4月以降に日本GAPのホームページで詳細な報告書をお出しできるかと思いますが、詳細報告はそちらでござんいただきたいのですが、ざっくりとした概況を日本GAP協会の横溝から報告させていただきたいと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

○横溝（日本GAP協会）　日本GAP協会の横溝です。本日はよろしくお願いいたします。

今回の補助事業で行われました世界のGAP調査の報告をさせていただきます。

P)　今回の調査の目的を大きく2つに分けますと、GLOBALGAPの導入事例の調査と、GLOBALGAP以外の独自GAPについての実態調査の2つに分けることができます。

まずGLOBALGAPの導入事例を見ていきたいと思いますが、GLOBALGAPの導入事例としとしても、欧州における先進事例の調査と、もう1つはアフリカにおける新規のGLOBALGAPの導入の2つを見ていきたいと思います。

P)　まずスペインの事例ですが、ロマノリアスというズッキーニの施設栽培産地を調査してきました。

このロマノリアスは、アルメリアというスペインの南、地中海沿岸の暖かい地域にあります。左側の写真は、飛行機から撮った写真で、施設栽培のビニールハウスがびっしり建っているのが見えると思います。

この地図上でアルメリアの向かい側、地中海を挟んで向かい側がアフリカのモロッコでして、こちらから多数の労働者がスペインにやってくるという現状であります。

P)　調査先のロマノリアスですが、2004年に設立されたまだ新しい生産者の団体です。メーンの作物はズッキーニと、ほかにマローというかぼちゃの仲間です。あとはトマト、ナスをつくっています。

傘下の生産者が150人いまして、それを取りまとめて出荷しているということになります。実際にGAPをしているのは上位10名だけですが、その上位10名だけで4割以上の出荷高を占めています。品質の高い、高く売れるものに関しましては輸出向けで、主にイギリス、フランス、あとは北欧といった地域に出荷しています。GAPを取っていないとか、品質の劣るものは地元の国内向けに出荷し、品質によって出荷先を分けているということになっています。

地中海沿岸ということでかなり温暖な地域ではあるのですが、周年栽培をするためにハウス栽培をしています。下の写真はズッキーニのハウス栽培の様子ですが、日本と違いまして台風とかが来ない、地震もないということで、丸太を使った本当に簡単な施設になっています。

P)　GAPについてですが、GLOBALGAPを取っている生産者は先ほど言いました上位1

0人のみになりますが、ロマノリアス本社については、GLOBALGAPのほかに、ISO9001や14001、HACCP、IFSやBRC、といった加工場に対して認証される規格、さらに労働に関する基準であるSA8000、他にはイギリスのテスコというスーパーの独自の規格でありますネイチャーズチョイスといった各種の認証を取得しているというのが特徴となっています。選果場、本社の方は各種の認証を取っていますが、生産者はGAPのみとなっております。

生産者にGAPをどのように導入しているかといいますと、専門の指導員が各生産者を10日ごとに巡回しまして、作業指示書というものをつくって、それを手渡しています。その週にどういった農薬をまいたらいいとか、どういった肥料をまけばいいというような指示が書いてありまして、生産者はその指示に従って作業を行って、作業しましたというサインを右下のサイン欄に書けば、それでGAPの記録になるというしくみになっています。

あと、無料の講習会を設立から2年間行いまして、それでGAP等について理解してくれる生産者のみを会員として育てていきました。ロマノリアスでは、無料の講習会と、サインだけでいい書類によって、生産者の負担を極力減らすための工夫がされているということが確認できました。

P) 次にイタリアの例を見ていきます。イタリアはVOGというリンゴ組合を調査に行ってきました。

ここはボルツァーノ自治県というところでして、イタリアの北の端、オーストリアとの国境のところですよ。かつてはオーストリア領だったということもあり、町の中はイタリア語とドイツ語両方の表示がしてあり、両方が公用語になっている地域であります。この地図を見てもわかると思うのですが、ボルツァーノは山岳地帯で、ブドウやリンゴの栽培が盛んです。

P) 今回訪問しましたVOGは、日本で言えば全農県本部、県経済連とも言うべき、地域の単位農協を束ねる団体でして、イタリア最大のリンゴ出荷組織の1つです。傘下の地域農協が21ありまして、うち1つはオーガニック専門の農協となっています。この傘下の5,400の生産者は、一部のオーガニック関係の生産者を除いてすべてGAPを取得しているということです。

輸出向けが半分、国内向けが半分ということで、輸出はドイツが一番多く、次に北欧、イギリスといった地域に出荷しております。ドイツ語で南チロルという意味の「Südtirol」が輸出向けのブランドになります。「Marlene」が国内向けのブランドになります。VOGでは地域ブランドの確立に力を入れておりまして、GAPについては表示していません。

P) VOGでは5,000人以上の生産者を管理しなければならないために、実際の管理はAGRIOSという監査会社が行っています。VOG自身は大まかな方向性を定めるだけでして、AGRIOSが傘下の農協と共同で栽培管理や内部監査をしています。このようにGAP管理をアウトソーシングすることによって事務局側の生産者管理の手間を軽減しているというのが、調査の結果わかりました。

P) 次にアフリカにおける導入事例を見ていきたいと思いますが、今回の調査ではガーナを対象としました。

ガーナはトーゴやコートジボワールに挟まれたアフリカの国で、日本ではカカオで有名なところですよ。近年ではパイナップルの輸出がかなりふえてきており、また新しくパパイヤの輸出も始まっ

ています。

P) しかし、輸出のためにはGLOBAL GAPを取得することが必要であるため、海外の援助・協力を得ながらGAPの取得をしました。先進国と違い、苦勞した点は、お金がないということと、特徴的なこととして、読み書きできない人がかなり多いということが挙げられます。審査費用については、援助プロジェクトから出してもらうことにより克服して、読み書きができる人が少ないということに関しては、読み書きできる人が中心となって、できない人にも記帳の仕方を教育していくということで克服しました。

GAPを導入してどういった成果が出たかといいますと、これまで栽培記録をつけたことのない人が記録するようになって、履歴がきちんと確認できるようになったということ、GAPを取得した結果、取引先の信用が増大して販路が拡大したということ、さらに販路が拡大してうまくいっているという情報が広まり入会希望者が殺到して組合自体の規模が拡大しているということが挙げられます。栽培面から言いますと、IPM技術を導入したことによって化学合成農薬の使用が減ったということもGAP導入効果の1つとして挙げられます。

P) お金がないということで、極力コストを抑えてGAPを取るためにどういった工夫をしたかといいますと、例として、ドラム缶を利用した農薬保管庫、大きなバケツに蛇口をつけた手洗い施設、ドラム缶を使った焼却炉といったものがあります。このように既存のものを利用し、極力お金を使わない工夫がなされました。他には、字の読めない作業者の方にもわかりやすいようにイラストで表示した衛生に関するポスターがあります。

P) 次にGLOBAL GAP以外のGAPについてですが、タイ、韓国、中国に調査に行っていました。

P) まずタイのGAPについてですが、タイにはQGAPとタイGAPという2種類があります。QGAPはタイの政府がつくったものであり、タイGAPは民間がつくっているものです。QGAPは輸出の際に必要なになっています。タイGAPは実質的にGLOBAL GAPの翻訳版というようなものになります。

P) タイGAPとQGAPを比較しますと、タイGAPはチェックリストを公表予定なのに対し、QGAPではチェックリストが非公開、タイGAPは団体認証があるのに対し、QGAPでは団体認証がない、タイGAPは現在作成中なのでまだ認証がないのに対し、QGAPでは認証が既に30万件もある、といった違いがあります。またQGAPには認証マークがあり商品に張ってあります。このように、タイにはGAPが2種類あるということがわかりました。

P) 次に韓国ですが、韓国におけるGAPは国が運営しており、審査自体は民間に任せています。韓国には親環境農産物という認証があり、日本で言う有機や特別栽培に当たるものになります。韓国のGAPは、その親環境農産物の延長上にあると考えられていまして、認証も品目別に行われているという特徴があります。

GAPの認証を取った農産物にはこのGAPラベルが張っており、認証番号や生産者の連絡先、トレーサビリティ用のトレースナンバーといったものが張ってあります。小売店のPOPにも「GAP」と書いてあります。

P) 運営システムですが、日本の農水省に当たる農林水産食品部が総括して、下の機関である農産物品質管理院や農林振興庁に対して指示を出しています。農産物品質管理院が認証機関を指定し、農林振興庁が管理基準を作っています。認証機関は民間企業でして、そこが生産者を認証しているということになります。「APC」とは出荷施設、選果場のことであり、韓国ではこのAPCがかなり重要視されていまして、認証を取ったAPCからでないと出荷できないということになっています。

○武田（司会） どうもありがとうございました。

GAPの先進地域といっていいと思うのですが、ヨーロッパではもう既にGAPの取り組みの中で、ほとんど生産者団体での取り組みがふえているわけですが、団体の取り組みの仕事自体が分業化されて、外注に出すとか、そういった取り組みになってきている、新しいビジネスとして出てきている部分があるようです。また、タイと韓国と見ただけでも、国によってGAPの取り組み方は随分異なっているものだなと思います。

4月以降に詳細報告書が出ますので、ぜひお楽しみにいただければと思います。